文部科学省 平成 24 年度「大学間連携共同教育推進事業」選定取組

# 彩の国連

**第10**号

2016年3月15日発行



[発行] 埼玉県立大学/埼玉医科大学/城西大学/日本工業大学

【お問い合わせ先】埼玉県立大学事務局·企画担当 ☎ 048-973-4715/ 図kikaku@spu.ac.ip

## 4大学連携IPW演習(緩和医療学)を実施

2016(平成28)年1月15日(金)、城西大学・坂戸キャンパス18号館において、 IPW演習(緩和医療学)が実施されました。

城西大学薬学部・細谷准教授が担当する「緩和医療学」 の授業枠を利用して4大学が合同で実施する同演習。が ん終末期の模擬症例について、患者およびその家族に対 するケアプランの作成を通じて、チーム形成、グループ ワークおよびマネジメントの模擬的実践を目的としてい ます。

当日は4大学から112名(県立大12名、埼玉医大43名、 城西大55名、日工大2名)の学生が参加。6~7名が1グ ループとなり、課題症例について、問題点の抽出、模擬 患者インタビュー、ケアプランの作成などのグループ ワークを行いました。限られた時間ではありましたが、 どのグループも初対面とは思えないほど活発な意見交換 が行われていました。

その後の発表では、グループごとに作成されたケアプ ランとそこに至るまでの葛藤などについて示されまし た。また、それに対する質問や意見などもたくさん出て いました。

参加した学生からは、「自分と他学科の学生の視点の 違いに気が付いた|「多職種連携の重要性を感じること ができた |「他の専門職の知識や視点に驚かされた |など、 有意義な時間を過ごせたという意見が多く見受けられま した。



模擬患者にインタビュー| てどのようなケアが必要か を考えます



初対面にもかかわらず、ど のチームでも活発な意見交 換が行われました



最後は、作成したケアプラ ンとチーム活動について発 表しました



### ▲ IPW演習を終えて

初対面とは思えないほど活発に意 見交換をしていました。葛藤もあり、 考え方の違いを実感したようで、専門 性や連携について 「考え」、「感じ」、そ して「気付く」、有意義な時間となって いると感じました。



自分とは違う職種を目指す方々とた くさんの議論を交わすことができ、そ れぞれの立場で問題の見方も違ってい てとても勉強になりました。この経験 をきっかけにチームでの緩和ケアにつ いて考え学んでいきたいと思います。



城西大学 薬学部薬科学科 高尾 浩一 助教

城西大学 薬学部薬学科4年 加藤 晴香 さん

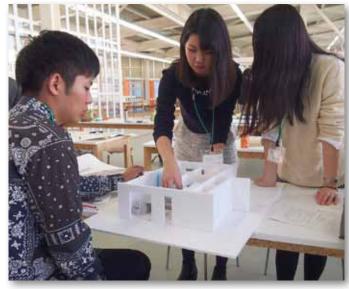
## ケアと空間の関係性について学ぶ

### IPW演習(生活空間とリハビリテーション)を試行

11月28日(土)、日本工業大学にて、「IPW演習(リハビリテーションと生活空 間デザイン)」が実施されました。具体的な設定を持つ仮想の住居者の生活と 住まいについて、埼玉県立大学と日本工業大学の学生が議論と提案を行いま した。その過程でチーム形成、グループワーク、チームマネジメントの方法を 体験的に学ぶことが目的です。

参加学生は埼玉県立大学理学療法学科の4名、作業療法学科の1名、社会 福祉学科の4名、日本工業大学生活環境デザイン学科の4名で、総計12名でし た(3~4年生)。異なる専門を学ぶ3名の学生で構成された4チームが演習に 取り組みました。





学生は事前に住居者の経歴、家族構成、病歴、健康状態、普段の暮 らし方、趣味、利用サービスなどの情報を受けて会場に集まりました。 各チームとも初対面ながら住居者の人柄、生活上の課題や希望に ついて、すぐに活発な意見交換を始めていました。 縮尺20分の1の 住戸模型が各グループに与えられ、必要に応じて住宅改修や家具 レイアウト調整の提案も行うというのが今回の演習の特徴でした。

埼玉県立大学の学生にとっては住まいについてトータルな視点 で検討することや、模型を作りかえながら議論を行うことが新鮮 であったようです。日工大の生活環境デザイン学科の学生にとっ ては普段の設計課題と比べて、より生活のリアリティに思いをめぐ らす機会になったようです。

今後は学生から提出されるレポートを参考に今回の試行プログ ラムの課題と可能性を検証し、正規科目への反映をめざします。



#### N IPW演習を終えて

これまで設計の課題でも、使う人の 気持ちを考えながら取り組んできまし た。今回の演習でもそれは変わりませ んでしたが、人の身体面や経済面ま で、より深く人の暮らしを考える必要 性に気づきました。



学内のIPW演習とは異なり、建築・ デザインの分野と連携することによ り、医療や福祉分野の視点だけでは思 いつかない考えも出てきました。模型 を使い視覚化されたことで、より生活 の状態を想像することができました。



埼玉県立大学 保健医療福祉学部 社会福祉学科3年

山本屋 晴佳 さん

#### 日本工業大学の設計製図科目「生活空間の設計」の 講評会に埼玉県立大学の学生が参加

12月25日、住民の暮らしを豊かにすることを目的とした団地の空きテ ナントに対する企画・設計案を日本工業大学生活環境デザイン学科3年 生が発表し、埼玉県立大学理学療法学科3年生と意見交換しました。





## 地域でつながる・地域をつなぐ

#### 講演会とワークショップを開催

12月5日(土)、ウエスタ川越にて講演会とワークショップ「地域でつながる・ 地域でつなぐ〜地域包括ケアの担い手を育てよう!〜 と開催しました。

第1部講演会「地域包括ケアシステム構築の 取り組み」では、住民主導の地域包括ケアシス テムの構築を目指している幸手杉戸地区で活躍 されている方々を講師に迎えました。「地域包 括ケアの目標は誰もが最後まで住み慣れた地域 で暮らし続けること」であり、「地域にこそ問 題があり、地域の現状を知ることがスタート」 という思いのもと、薬剤師の関谷陽子さんから は専門職として地域に具体的にどう関わってい るのか、そしてその根底にある郷土愛について、 小泉圭司さんからは、「暮らしの中の地域包括 ケア」、地域のインフォーマルな資源をどうつ なぐか、というお話をいただきました。





第2部ワークショップ「『地域でつながる・ 地域をつなぐ』人材のコンピテンシー」では、 各自のチームで活動した経験を紹介し合った 後、「地域で自分が一緒に活動しやすい人の言 動や態度 | を具体的に考えていきました。この 時出た意見の中で、これは大事!と多くの賛同 が得られたものは「相手の困難に気づく」「そ の人の人生に関心を持つ | 「一人でなんでもや ろうとしない」「失敗したことを隠さない」な どでした。

参加者は第1部87名、第2部58名で、熱心 な質疑応答や議論が飛び交う、あっという間の 4時間でした。



### ▲ 講演会・ワークショップを終えて

今回の講演会・ワークショップには 地域住民の方々も多く参加され、住民 主導の活動に参加しておられる立場 からの御講演・御意見は、私どもにと って大変参考になりました。深く感謝 申し上げます。



埼玉医科大学 地域医学・医療センター 荒木 隆一郎 助教

人は地域でたくさんの人に支えられ て生活しています。 参加された多くの 地域で活動されている方々、専門職の 方々。お互いが活動を理解し、補い合 うことで安心して暮らせる未来を感じ ることができました。ありがとうござい ました。



元気スタンド・ぶリズム代表 小泉 圭司 さん

## 『連携を語る』

さまざまな分野の方にインタビューを行い、連携の魅力や 課題などを語っていただきます。今回のゲストは、鶴ヶ島 在宅医療診療所副院長 医師 齋木実さんです。

#### 「このプロジェクトに協力するのは、僕のためなんです」

齋木実さんは、医師として地域の人々の在宅ケアに携わる傍ら、本プロジェクトの IPW実習やIPW演習といった取り組みに、これまで多大なご協力をいただきました。快く協力してくださる理由を伺ったところ、この地域で自分を将来看取る人、生活を支える人を育てるためだと、齋木さんは言います。

では、地域でケアをする人には、何が必要なのでしょうか?

「もちろん "治す医療" も経験していないと、在宅医療という仕事はできないと思います。でも、特別な技術というよりも、いかにその人の生活や人生に想いが馳せられるかが大切。学生には、多くの経験を積んでから、地域に戻ってきてほしいと思います。」



鶴ヶ島在宅医療診療所 副院長 医師 **齋木 実** さん

#### 施設ファシリテータ意見交換会を開催

2015年12月1日、ウエスタ川越にて、施設ファシリテータ意見交換会が開催されました。4大学連携IPW実習でご協力いただいた8施設10名の施設ファシリテータと、4大学10名の教員ファシリテータが、8月に行った実習のリフレクションを行いました。

これからも、学生の主体的な連携の学びを導くために、ファシリテータ間の情報共有を図り、ファシリテーションの質の向上が図れればと思います。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。



施設ファシリテータのみなさんが持つ、 学生教育への熱い思いが伝わってきました

介護老人保健施設 ビッラ・ベッキア 支援相談課

内海 巨史 さん



皆さんと意見交換を行い、自分の考えや悩みを整理することができました。普段学生に伝えている率直に話し合うこと、繋がることの大切さを改めて実感できました。これからも学生と共に成長できればと思います。

#### 彩の国大学連携評価委員会



2月23日(火)、ラフレさいたま(さいたま市)にて、今年度の彩の国大学連携評価委員会が開催されました。プロジェクトメンバーより今年度の事業進捗状況について説明を行った後、評価と

様々なコメントをいただきました。「取組内容や成果を県単位でもっと広報してほしい」「補助期間終了後もぜひ取り組んでほしい」などのご意見を力にして、今後も努力してまいります。

なお、評価委員は次の方々に委嘱しています。

委員長 斉藤 正身氏 (医療法人真正会理事長)

委員 岩田 尚明氏 (特別養護老人ホーム吾亦紅施設長)

酒井 郁子氏 (千葉大学大学院看護学研究科教授)

鯉渕 肇氏(埼玉県薬剤師会会長)

山田あすか氏 (東京電機大学未来科学部建築学科准教授)

#### 取り組み成果の公表・視察への対応

- ●4大学教員が本プロジェクトについて寄稿:『公衆衛 生領域における連携と協働』(武藤孝司他編著・日本 公衆衛生協会発行)
- ●城西大学細谷治准教授が論文寄稿:「彩の国連携力 育成プロジェクトについて」『医薬ジャーナル』(2015 年12月号)
- ●本プロジェクトやIPEに関する視察受け入れ:広島国際大学(2015年12月3日)/長崎大学(2016年2月12日)
- ●城西大学細谷治准教授が日本私立大学連盟医療系学 部長等会議にて報告:「地域基盤型多職種連携教育 の試み—大学連携による住民の暮らしを支える専門職 の育成」(2016年1月13日開催)
- ●埼玉県立大学新井利民准教授が北海道ブロック社会 福祉実習研究協議会主催研修にて報告:「チームアプローチ教育の組み立てと展開」(2016年2月20日開催)

#### Information

公式ホームページ、Twitter、Facebookで情報配信中!









